きである。特に今回のグループ討議を通じ、著者も他の図書館の方の話から新たな発見・方法を見出す事が出来た。他の図書館員の方と交流する機会があれば、または是非参加してみたいと感じている。

Ⅲ. まとめ

【“雑誌オタク”になろう！】をキャッチフレーズとして：この言葉は、雑誌業務に従事しているから「雑誌の内容」だけに精通していればよいのではなく、雑誌業務を

遂行していくに当たり関連するあらゆるファクターに精通していく必要がある事を意味している。これは例えば解決策の所で述べてきたような経済関係の知識（為替レート等）、他業界の動向の把握や、様々なコミュニケーション能力の向上等も含まれる。医学図書館が置かれている状況は非常に厳しいが、利用者が満足出来る雑誌環境を提供できるよう、各所にアンテナを張り、日々研鑽していく必要があるだろう。

グループ討議報告 情報検索1：利用者を通じて検索技能の向上を目指す

高崎 千晶*

済生会川口総合病院図書室

I. はじめに

情報検索1グループは計9名であり、メンバーの所属は受託サービス1名、製薬会社1名、大学図書館2名、病院図書室5名という内訳であった。

医中誌 Web や PubMed の基礎や機能や利用法、情報検索に関しての利用者教育という、メンバーに関心の高いテーマをもとに討議をした。

Ⅱ. 問題提起

まず、日常業務で感じていることへの意見を出し合い、解決策のヒントを探った。

データベースについては、「PubMed はリニューアルがあると使用方法がわからなくなってしまう」、「サブヘディングスなど専門的な項目を選択する箇所は知識がないと戸惑う」といった問題点が挙がった。

利用者教育については、「自分が研修会で得た情報の受け売りになりがちである」、「号は『〇月号』のことだと思っている利用者が見受けられる」、「最初に図書と雑誌の違いや雑誌の巻号について理解してもらわねばならない」、「学生に対し一年次にガイダンスを行うが覚えて

もらえていないことが多い。データベースの使い方を覚えてもらうためには工夫が必要。学生は宿題として課題を与えると取り組まないの、やらざるをえない状況に追いこむ」、「医中誌 Web で全文が入手できると思っている利用者が多い」といった事例が出された。

レファレンスについては、「臨床医・教授・学生・患者などと利用者が多岐にわたるため受ける質問が幅広い」、「用語への知識が乏しいので利用者の質問の意味がわからない」、「図書館員が医学用語を理解できないだけでなく利用者が文献に関する知識がないため話が噛み合わない。特に看護師の質問は意味がとりづらいことが多い」、「依頼内容の書誌情報が間違っている」といった声があった。

また、代行検索についても討議が及んだ。「利用者と一緒に検索してやり方を学習してもらう」、「電話で問合せを受けることもあるがその場で答えるのは難しいため図書室へ足を運ぶよう促す」、「利用者自身イメージが漠然としていることがあるので聞き取りつつ進める」といった報告がなされた。

話を進めるうちに、医師はある程度検索に習熟していたり、特定の患者に対する診療や治療のためなどと目的が明確であったりするためにピンポイントでレファレンスを依頼することが多いが、患者や、看護研究のテーマ

*Chiaki TAKASAKI：〒332-8558 埼玉県川口市西川口5-11-5.
(2008年9月29日 受理)

を模索中の看護師はイメージが漠然としており把握しきれていない中での依頼が多いことが指摘された。文献検索と一口にいても、特定の文献を探すことと、知りたいことについて探すことの二種類に大別されるようである。後者に対する問合せは曖昧なことが多く、検索に時間と技術を要し、苦心するところであるとの見解がまとまった。

Ⅲ. 具体事例

業務で経験した具体的な事例が二点挙げだったので、全員で実際に検索を行った。

事例の一つ目は、看護研究で取り上げるため「ハチミツアイスボール」の文献を探してほしいという依頼である。「ハチミツアイスボール」で検索すると、医中誌 Web では1件、CiNii では2件がヒットするという結果だったが、検索語を「アイスボール」に変えてみたところ、医中誌 Web においては11件に増えた。

二つ目は、手が不自由でも義歯を洗いやすくするためのものを作りたいが先行研究があるかという看護師からの質問である。どのようなキーワードが適切なのかわからず苦慮した。「義歯」や「洗浄」で検索するとヒッ

ト件数が少なく、また、知りたい情報と一致しないものが多かった(洗浄液など)。種々の言葉を考えた末、「洗浄」を「清掃」に変更し、「ブラシ」という単語を加えるとヒット件数が大幅に増加、依頼者の要望に応じうる文献も発見することができた。

以上のことから、キーワード選択の重要性が浮き彫りになった。しかしキーワードを候補としていくつも挙げるためには、語彙を増やさねばならない。常日頃から医学や医療へのアンテナを張り巡らせ、基礎知識を得るよう努力する大切さも痛感した。

Ⅳ. おわりに

研修会の二日目では文献検索を学んだため、講義内容をその場で生かすことができた。一人につき一台パソコンを貸与されたので、講義中だけでなくグループ別討議においても検索を試みることができ、非常に有意義であった。また、電子リソースの講義でもフリーでアクセスできる文献についての知識を得られ、大いに参考になった。利用者との関わりを通じ、今後ますます学習と工夫を重ね、さらに研鑽していきたい。

グループ討議報告 情報検索2：情報検索におけるスキルアップ

広瀬裕紀子*

昭和大学図書館

Ⅰ. はじめに

平成20年8月6日から3日間、「医学図書館員の基礎固め：必要とされるライブラリアンになるために」というテーマのもと、第15回医学図書館員基礎研修会が開催された。本稿は、研修会でのグループ討議の場で話し合われた「情報検索2：情報検索における、スタッフのスキルアップ」について主に報告するものである。

Ⅱ. テーマの選定

事前アンケートからの参考資料としてメンバーそれぞれの関心事が配布された。しかし、当グループでは資料に沿ってテーマを決める前に情報検索に対する各自の問題点や疑問点などが意見として出されたのである。出た意見に対しての解決法の模索、アドバイスが行われた。そして、意見交換をするうちに、それらに共通したテーマの方向性が見え始めたのである。

なぜ問題が起こるのか、疑問が沸くのかと考えたときに、技能不足という点が大きく関係しているという意見

*Yukiko HIROSE：〒145-8555 東京都品川区旗の台1-5-8.
Tel.03-3784-8042 ykk@lib.showa-u.ac.jp (2008年9月26日 受理)